

JASRAC講座 ミュージック・ジャンクション ～ワールドミュージック～ 第28回 親指ピアノ～暇つぶし楽器の今昔

(2月21日 けやきホール)

「暇つぶしに歌でも歌おう。なんの歌を歌おうか。そうだ!この親指ピアノで、とりあえず親戚の名前を片っ端から歌ってみよう」とアフリカで演奏される親指ピアノ。

世界各地の音楽にスポットをあて、演奏を交えて解説するJASRAC講座。今回は、親指ピアノ演奏家のサカキマンゴーさんを講師に迎え、親指ピアノの魅力を紹介した。

第1部:講義 <講師>サカキマンゴー(親指ピアノ演奏家)

第2部:演奏 <演奏>サカキマンゴー&リンバ・トレイン・サウンド・システム

<総合コーディネーター>北中正和(音楽評論家・東京音楽大学非常勤講師)

<司会>ayako(制作プロジェクトHaLo主宰)



サカキマンゴーさん(左)と北中氏

今回の講師、サカキマンゴーさんは、アフリカの伝統音楽の調査・研究とともに、コンサート活動やアフリカの現状を伝える講演を全国各地で多数行っている。

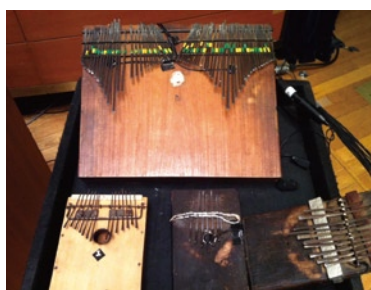
第1部の講義では、楽器を演奏しながら、親指ピアノの歴史と魅力を紹介した。



サカキマンゴーさん

■親指ピアノとは

親指ピアノは板や箱の上にヘラ状の細長い金属を並べ、両手の親指の爪ではじいて演奏する楽器の総称で、サハラ以南のアフリカ各地に様々な形状や異なる名称で存在している。もともと個人的な暇つぶしのために爪弾くもので、先祖などの霊を呼ぶ憑依儀礼の場でも演奏される。



親指ピアノ

■親指ピアノの拡散

アフリカの奴隷貿易の歴史の中で親指ピアノは世界各地に拡散した。南米・キューバにも親指ピアノが起源とされる楽器がある。

■商品名「カリンバ」

親指ピアノを指して、本来アフリカ・マラウィ地域での呼称である「カリンバ」ということが多い。これは1960年代に南アフリカの楽器メーカーがワールドマーケット向けに親指ピアノを「カリンバ」として売り出したことに由来する。同時期、アメリカの黒人ミュージシャンのモーリス・ホワイトが演奏し、その名が世界的に広がった。

■親指ピアノの衰退

親指ピアノはラジオという新しい娯楽の出現により衰退の一途をたどる。一方、銅の採掘に必要な電力を供給するために村がダムに沈み、演奏者が途絶えてしまった例もある。サカキマンゴーさんは「その銅を日本が輸入し、10円玉として使っている。遠い国の話のようだが、我々の日常生活にもつながっていることを意識してほしい」と訴えた。

第2部の演奏では、ジンバブエの伝承曲などが披露された。メロディとリズムで拍子が異なるポリリズムなどアフリカ音楽の伝統を活かしながら現代風に編曲し、親指ピアノにアンプを取り付け、ドラムとベースを加えて演奏するスタイルに観客は総立ちになった。



サカキマンゴー&リンバ・トレイン・サウンド・システムの皆さん



会場が総立ちに

今回初めて、講座の様様を「ニコニコ生放送」で配信し、視聴者や会場から質問を募集した。演奏終了後、サカキマンゴーさんは「親指以外も使っているのか」との質問に「人差し指も使っている。カメルーンには、親指以外の8本の指で弾くものもある」と、丁寧に答えた。

講座の様様をホームページでストリーム配信していますので、ご覧ください。

URL:<http://www.jasrac.or.jp/culture/stream.html>